

令和6年度

シラバース



2 学 年

北海道おといねっふ美術工芸高等学校

教 育 課 程 表

令和6年度 学年別教育課程表

教 科	科 目	標 準 単 位 数	1年	2年		3年		
			共通	工芸	美術	工芸	美術	
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現 代 の 国 語	2	2				
		言 語 文 化	2	2				
		論 理 国 語	4		3	3	2	2
	地 理 歴 史	地 理 総 合	2		2	2		
		歴 史 総 合	2				2	2
	公 民	公 共	2	2				
	数 学	数 学 I	3	3				
		数 学 II	4				3	3
		数 学 A	2		2	2		
	理 科	化 学 基 礎	2				2	2
		生 物 基 礎	2		2	2		
		地 学 基 礎	2				2	2
	保 健 体 育	体 育	7～8	2	2	2	3	3
		保 健	2	1	1	1		
	芸 術	美 術 I	2	2				
		美 術 II	2		2	2		
美 術 研 究		4					4	
外 国 語	英 語 コミュニケーション I	3	3					
	英 語 コミュニケーション II	4		3	3	3	3	
家 庭	家 庭 基 礎	2		2	2			
情 報	情 報 I	2	2					
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	工 業	工 業 技 術 基 礎	2～4	4				
	美 術	美 術 概 論	2～4			2		
		素 描	2～6				2	2
		絵 画	2～4				4	
	工 芸	図 法 ・ 製 図 I	2	2				
		図 法 ・ 製 図 II	2		2			
		木 工 制 作 I	4	4				
		木 工 制 作 II	4		4	4		
		工 芸 制 作	4		4			
		課 題 研 究	4				3	3
	工 芸 研 究	4				4		
小 計			29	29	29	26	26	
総 合 的 な 探 究			0	0	0	3	3	
ホ ム ル ム 活 動			1	1	1	1	1	
合 計			30	30	30	30	30	

教科名	国語		科目名	論理国語	学年	2学年
教材	教科書	論理国語（大修館書店）			単位数	3
	副教材	①意味と書き分けがわかる漢字Lab3500頻出語（浜島書店） ②新版六訂 カラー版 新国語便覧（第一学習社） ③新編 論理国語学習課題ノート（大修館書店）			履修区分	共通
学習の目標	1 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める					
	2 ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。					
	3 国語に主体的に取り組む態度を養う。					
学習の進め方	1 朝学習において漢字のテストを実施。					
	2 現代文を読んで、論理の展開、筆者の主張を的確に読み解く力を向上させる。					
	3 表現技法を理解、駆使しながら豊かに表現できる能力を養う。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション ○世界・言葉・私／ ・対話の精神	・論理国語の学習について ・「論理」のついでに筆者の考えを読み取る。	
	5	○芸術と文化／ ・ミロのヴィーナス ・具体的・抽象的に書く	・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味する。	
	6	○日本語の多様性／ ・敬語への自覚、他者への自覚	・言葉と社会の関わりに興味を持ち、自身の考えを深め	単元テスト ノート提出
	7	・情報を集めて分類する	・集めて情報を観点に応じて整理・分類する ・整理・分類した情報をもとに、自分の考えを書く	
	8	○共同体のいま ・コミュニティから見た日本	・グラフと関連付けながら本文を読み取る。	
	9	・統計資料から分析したことを書く	・自分の考えと、統計資料から読み取ったことを 区別して書く。	[期末考查] ノート提出
前期目標				
後	10	○思考の枠組み ・デジタル地図から見える世界	・対比の関係を意識しながら読み、論理の展開を 的確に捉える。	
	11	○グローバル化の先へ／ ・心に「海」を持って	・文明と海や人との関係を知り、普遍性について 考える。	単元テスト ノート提出
	12	○グローバル化の先へ／ ・世界は、いま	・グローバル時代における文化の多様性の価値を 考える。	
	1	・調べたことをレポートにまとめる	・レポートの書き方 ・目的を明確にして適切な引用をおこなう。 ・情報収集と効果的な構成を考える。	
	2	○科学の可能性／ ・人工知能の可能性と畏	・具体例をふまえて、主張を捉える。 ・人工知能の現状、その特徴について読み取る。	[期末考查] ノート提出
3	・意見を交流する	・ディベートを通して論理的思考力、批判的思考力を 身につける。		
後期目標				

評価方法	・定期考查・単元テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度 等で評価します。 ・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。		
評価の 観点	【知識・技能】	表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。	30%
	【思・判・表】	自分の考えを発展させながら、目的に応じた文章の読み取りが出来るか。	50%
	【主体的態度】	積極的に言語活動に取り組み、言語文化に対する関心を持っているか。	20%

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	学年	2 学年
教材	教科書	地理総合（二宮書店）、基本地図帳 改定版（二宮書店）		単位数	2
	副教材	地理総合ワークブック（二宮書店）		履修区分	共通
学習の目標	1 世界で見られる具体的な地理的事象を通じ、知識を一般化できる能力を身につけます。				
	2 各地の文化や自然を理解し、それを表現できる力を身につけます。				
	3 地図や資料を読解・解釈し、それを思考・判断・表現する力を高めます。				
学習の進め方	1 前期は自然地理と地誌を、後期は地誌、地球の諸問題や防災・地形図について学びます。				
	2 地図・資料の読解・解釈を通して、思考力・判断力・表現力を高めます。				
	3 ワーク提出や小テスト・定期考査を通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	○オリエンテーション 地図とGISの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・球面上の世界 ・世界からみた日本の位置と領域 ・国内や国家間の結びつき 	<ul style="list-style-type: none"> ※考査毎にワーク・ファイルを提出します。
	5	○地理的環境の特色	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしのなかの地図とGIS ・地形と生活文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・レポート
	6		<ul style="list-style-type: none"> ・気候と生活文化 ・産業と生活文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・ファイル提出
	7	○世界各地の生活文化	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教・言語と生活文化 ・東アジア（中国・朝鮮） 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート
	8		<ul style="list-style-type: none"> ・ASEAN諸国 ・南アジア 	
	9		<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏 	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査 ・ファイル提出
前期目標				
後	10		<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ ・EUと周辺諸国 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト
	11		<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア ・アメリカ・カナダ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル提出
	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカ ・オセアニア 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート
	1	○地球的課題と国際教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題 ・資源エネルギー問題、人口・食糧問題 ・居住・都市問題 	
	2	○生活圏の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境と防災 ・生活圏の諸課題と地域調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査 ・ファイル提出
	3			<ul style="list-style-type: none"> ・レポート
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・単元テストの成績、ワーク・ファイル・レポート、グループワーク、振り返り等で評価します。 ・地理歴史科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。 			
評価の観点	知識・技能	地理的な事象について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。（考査、小テスト）	40%	
	思考・判断・表現	地理的な事象に関する意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、構想、表現、議論ができるか。（考査、レポート、提出部の内容）	30%	
	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとしている。（考査、レポート、提出物の内容）	30%	

教科名	数学		科目名	数学A	学年	2 学年
教材	教科書	新 高校の数学A (数研出版)			単位数	2
	副教材	新課程 基本と演習テーマ 数学I+A (数研出版)			履修区分	共通
学習の目標	1 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深める。					
	2 場合の数と確率を事象の考察に活用できるようにする。					
	3 整数や図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。					
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、集合、場合の数、確率を学ぶ。					
	2 後期は教科書の内容を中心に、整数のさまざまな性質や図形の性質を学ぶ。					
	3 毎時の授業で課題をだし、学習習慣を定着させつつ理解を深める。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション 1章：場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> 数学Aの学習について 数え上げの原則 順列 	
	5		<ul style="list-style-type: none"> 組み合わせ 同じものを含む順列 	<ul style="list-style-type: none"> * 適宜単元テストを行う * 週末課題を課す
	6		<ul style="list-style-type: none"> 事象と確率 	
	7		<ul style="list-style-type: none"> 確率の基本性質 独立な試行の確率 反復試行の確率 	
	8		<ul style="list-style-type: none"> 条件付確率 期待値 	
	9		三章・数学と人間の活動	<ul style="list-style-type: none"> 約数と倍数、素因数分解 最大公約数と最小公倍数 ユークリッドの互除法
前期目標				
後	10		<ul style="list-style-type: none"> 不定方程式 記数法 	
	11	3章：図形の性質	<ul style="list-style-type: none"> 小数と分数 	<ul style="list-style-type: none"> * 適宜単元テストを行う
	12		<ul style="list-style-type: none"> 三角形と比、重心・外心・内心 円に内接する四角形、円と接線 	
	1		<ul style="list-style-type: none"> 接線と弦のつくる角、方べきの定理 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> 円と円の位置関係 空間図形 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年末考査 ノート回収 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> 課題学習 		
後期目標				

評価方法	・ 定期考査、単元テスト、ノートの提出、日常の授業への参加態度等で評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	積極的に学習し、自己調整をすることが出来ているか。	40 %
	【思考力・判断力・表現力】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。	20 %
	【主体的に学習に取り組む態度】	日常のモデルを数式に置き換えることで課題解決ができ、それをまとめることができるか。	40 %

教科名	理科	科目名	生物基礎	学年	2
教材	教科書	新編 生物基礎		単位数	2
	副教材	改訂版 リードLightノート 生物基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。				
	2 日常生活との関わりを通して、生物や生命現象に対する興味・関心を高める。				
	3 観察、実験などを通して生物学を科学的に探究する姿勢を身につける。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、遺伝子や体内環境、生態系についての基本知識を習得します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	第1章 生物と特徴	・生物の多様性と共通性		
	5		・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸	・小テスト	
	6	第2章 遺伝子とのはたらき	・遺伝情報とDNA	・単元テスト ・ノート、ファイル提出	
	7		・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報の発現		
	8	第3章 ヒトと体内環境の維持	・体内での情報伝達と調節		
	9			・期末考查 ・ノート、ファイル提出	
	前期目標				
	後	10		・体内環境の維持のしくみ	・小テスト
		11		・免疫のはたらき	・単元テスト ・ノート、ファイル提出
12		第4章 生物の多様性と生態系	・植生と遷移		
1			・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性		
2			・生態系のバランスと保全	・学年末考查 ・ノート、ファイル提出	
3					
後期目標					

評価方法	・定期考查、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 ・理科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	定期考查、単元テスト、ノート、ファイル、レポートの状況 など	30%
	【思・判・表】	定期考查、単元テスト、実験レポート、ファイルの状況	30%
	【主体的態度】	授業時の様子、提出物等の提出状況	40%

教科名	保健体育		科目名	体育		学年	2 学年	
教材	教科書	現代高等保健体育				単位数	2	
	副教材	ステップアップ高校スポーツ				履修区分	共通	
学習の目標	1 体育活動をとおして運動の楽しさや喜びを味わい、技術向上を目指す。							
	2 作戦や戦略を組み立て、課題を発見し、解決に向けて考えたり判断したことを他者に伝える力を養							
	3 公正に取り組み、互いに協力しながら健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。							
学習の進め方	1 応用的な運動領域に触れながら、課題解決能力を身につけます。							
	2 班活動による集団学習を通して参画、公正、協力、責任の態度を養います。							
	3 学習した内容をワークシート等で振り返り、理解を深めます。							

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	○オリエンテーション ○新体力テスト ○体づくり運動	・自己の体力に気付き、向上させていく。 ・体力トレーニングについて	・新体力テストの実施	
	5	○体づくり運動 ○体育理論 → 安全の確保について ○器械運動	・手軽な運動、実生活に生かす運動 ・マット運動の基本技能の習得 (能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる)	・技能テストの実施	
	6				
	7	○水泳 ○体育理論 → 水泳授業の安全について	・主にクロールの習得、その他の泳法習得 (ゆっくり永く泳ぐことを目標に行う)		
	8				
	9	○ダンス ○体躯理論 →	・フォークダンス、創作ダンス、現代的なリズムのダ ・文化的特徴や発展について	・発表会の実施	
	前期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理化や課題解決能力を身につける。 ・仲間と協力して行うことや表現することを目指す。 ・健康・安全に留意させ、自己防衛力や危機管理能力を向上させる。 			
	後	10	○球技	・バレーボール（ネット型） (ルール理解、個人技能の習得を目座す)	・技能テストの実施
		11	○球技	・バスケットボール (ルール理解、個人技能の習得を目指す)	・技能テストの実施
12		○体育理論	・生涯スポーツの見方・考え方（体育祭）		
1		○スキー	・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。		
2					
3		○選択球技 ○体育理論	・バドミントン、卓球の選択 ・ライフスタイルに応じたスポーツ		
後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や他者の意見を伝えたり理解し、課題解決を目指す。 ・体力の構成要素である行動力と生存力の保持増進を目指す。 ・次年度に向け、応用的な運動領域に触れ、継続的な技能の向上を目指す。 				
評価方法	・技能テストだけでなく、授業に取り組む姿勢や、公正、協力、責任などの態度、ワークシートの提出状況等を総合的に評価します。				
評価の観点	【知識・技能】	・運動の合理的、計画的な実践を通して技術だけでなくルール等を身につけているか。		40%	
	【思・判・表】	・課題を発見し、解決の仕方や気付いたことについて自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりしているか。		40%	
	【主体的態度】	・公正に取り組み、仲間と協力したり、関わろうとしているか。		20%	

教科名	保健体育		科目名	保健	学年	2 学年
教材	教科書	現代高等保健体育			単位数	1
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の目標	1 個人や社会生活における健康・安全について理解を深めます。					
	2 健康について自他や社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断すること力を養う。					
	3 生涯を通じて自他の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。					
学習の進め方	1 個人や社会生活における様々な課題を通して、解決する方法などについて学ぶ。					
	2 グループワークを通して自他の考えを共有して、他者に伝える力を身につけます。					
	3 健康・安全について単元テストやワークシートを用いて理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	○オリエンテーション	・2学年の保健の学習について	・単元テスト	
	5	○ライフステージと健康	・思春期の体と健康		
		○性意識と性行動の選択	・性意識の変化と異性の尊重		
	6	○妊娠・出産と健康	・受精・妊娠・出産と健康		
		○避妊法と人工妊娠中絶	・避妊法と対策		
	7	○結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活		
○中高年期と健康		・加齢による変化と健康	・前期期末考查		
8	○労働災害と健康	・労働災害、安全と健康管理			
	9	○健康な職業生活		・仕事と生活調和	
10		○大気汚染と健康		・大気汚染と健康、環境	・前期期末考查
	○水質汚濁と土壌汚染	・水質汚濁、土壌汚染と健康			
前期目標	・自らの健康を考え、実生活で活かすことを目指す。				
	・自分の意見や他者の意見を伝えたり理解し、課題解決を目指す。				
	・自らの健康を考えるだけでなく、社会全体の取り組みを理解することを目指す。				
後	10	○四大公害	・四大公害の歴史と現在	・単元テスト	
	11	○食品の安全性	・食品の安全と環境の保全		
		○食品衛生法にかかわる活動	・食品の安全性と衛生管理		
	12	○保健サービスと活用	・保健行政と保健サービス		
		○医療サービスとその活用	・医療機関と医療サービスの活用		・学年末考查
	1	○医薬品の制度とその活用	・医薬品の種類と使用法		
2		○さまざまな保健活動や社会的対策	・健康を支える保健活動		
	3	○健康に関する環境づくりと社会参加	・環境作りと社会参加		
後期目標		・自らの健康を考えるだけでなく、社会全体の取り組みを理解することを目指す。			
評価方法	・定期考查、単元テスト、ワークシート、提出物、日常の授業における参加意欲で評価する。 ・観点別学習状況の評価の3観点において評価する。				
評価の観点	【知識・技能】	・生涯的な健康や環境と健康について、理解できているか。			50%
	【思・判・表】	・学習内容について、将来を見据えて考えることができているか。			30%
	【主体的態度】	・自信の健康に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。			20%

教科名	芸術	科目名	美術Ⅱ	学年	2
教材	教科書	高校生の美術2（日本文教出版）		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。				
	2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。				
	3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
学習の進め方	1) 課題を通し表現やデザインの工夫について理解を深め、表現力を高めていきます。				
	2) 多様な発想を生み出す力を高めるとともに、他者の制作意図や工夫を感じ取る力を高めます。				
	3) 教科書、配付資料、参考作品を鑑賞し、表現活動やデザインの役割や機能について理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション デザインの目的や機能① ・インテリアデザイン	・科目の目標や内容について理解する。 ・1年間授業の流れを理解する。	シラバスを配布し、1年間の流れを説明。
	5	鉛筆デッサン① ・実技 ・鑑賞	・モチーフの配置や構図を意識して描く力を身に付ける。	鉛筆の使い方の復習と題材に合わせ質感や色味の描き方を学び、課題を提出。
	6	デザインの目的や機能② ・インテリアデザイン	・主に家具のデザインについて学び、その歴史や様式、特徴や工夫について理解する。	名作家具から近代家具を中心に学びます。調べ学習後にそれぞれが学んだことについてレポートを提出。
	7		・デザインの考え方や意図について学び、機能や形態を考えたデザインを制作する。	
	9		・デザインスクール ・レポート作成（名作椅子について）	デザインスクールで学んだ名作椅子についてのレポートを提出。

前期目標				
------	--	--	--	--

後	10	鉛筆デッサン② ・実技 ・鑑賞	・様々なモチーフの質感、色味を描き分ける力を身に付ける。 ・モチーフの量感を描く力を身に付ける。	・2グループに分かれ実施予定。前期で学んだ知識や技術を応用した課題を行う。
	11		・モチーフの位置関係や距離感など、空間の表現を意識して描く力を身に付ける。	
	12			
	1			
	2	・社会と芸術とデザイン	・画像の加工方法について学ぶ。 ・プレゼンテーション資料（レポート）の作成。 ・発表と鑑賞。	・画像編集用ソフトを使い画像加工やポートフォリオの作り方を学ぶ。
3	まとめ	・1年間の授業の振り返り。	・高大連携授業で学んだフォントによる印象の違いや、写真撮影方法、レイアウトを意識してまとめる。	

後期目標				
------	--	--	--	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の取り組みの観察、教師とのやり取りやワークシートからの見取りで評価します。 提出された作品・課題から評価します。 様々な観点から総合的に評価します。（詳細については授業内で配布する評価規準表を参照） 			
評価の観点	【知識・技能】	創造的な視点について理解を深めているとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるか。	35%	
	【思考力・判断力・表現力】	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ることができるか。	35%	
	【主体的に学習に取り組む態度】	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が身についたか。	30%	

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅡ	学年	2 学年
教材	教科書	LANDMARK Fit English CommunicationⅡ (啓林館)		単位数	3
	副教材	①改訂第2版 キクタンリーディング Basic 4000 ②Vision Quest New English Grammar 24 WORKBOOK		履修区分	共通
学習の目標	1 英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英語を聞いたり読んだりして理解できる。				
	2 学習した内容や自分の経験・知識について、分かりやすい英語で話すことができる。				
	3 身近な出来事や自分について、正確な英語で読み手に伝わるように書くことができる。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。				
	2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。				
	3 ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan	描かれている漫画の内容について情報や自分の考えを論理性に注意して文章を書いて伝える。	・スタサポアセスメント
	5	Lesson 2 A Message from Emperor Penguins	コウテイペンギンの生態について書かれた文章を読み、必要な情報を読み取り、要点や詳細を把握する。	・単元テスト
	6	Lesson for Paragraph Writing 1	順序や原因・結果を表すディスコースマーカートの働きを理解する。	・単元テスト
	7	Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle	日本の誇れることについて、情報や自分の考えを論理性に注意して文章を書いて伝える。	
	8	Lesson for Paragraph Writing 2	対比や例示を表すディスコースマーカートの働きを理解する。	・単語テスト
	9	前期まとめ	前期までの内容を総括する。 対話形式のパフォーマンステストをペアで実施する。	・期末考査 ・パフォーマンステスト
前期目標	Paragraph Writingを学ぶことで、「思考・判断・表現」する力を育みながら、80語以上のまとまりのある文章を書けるようになる。 パフォーマンステストにおいて「知識・技能」を用いて、絵や図の描写ができるようになる。			
後	10	Lesson 4 Seeds for the Future	タネの保全のための活動と取り組みについて書かれた文章を読む。自分の関心のあることや熱中していることについて、やり取りを続ける。	・スタサポアセスメント
	11	Lesson for Paragraph Writing 3	実際のエッセイライティングを通して、論理的な文章構成を理解する。	・単元テスト
	12	Lesson 5 Gaudi and His Messenger	自分が感銘を受けた歴史的建造物について、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。	
	1	Lesson 6 Edo: A Sustainable Society	私たちが無駄にしているものについて、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝える。	・単語テスト
	2	Speaking & Writing Practice	テーマに沿って、討論や発表をする。また、検定などを意識したEssay Writingを行なう。	・学年末考査
	3	一年のまとめ	学習の振り返り、次年度に向けて	
後期目標	高校学習段階の理解と、ポスター作製を通じて、「思考・判断・表現」する力を向上させる。 「主体的に学習に取り組む態度」を育みながら、教科書の内容を自ら学習する習慣を身に付ける。			

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への積極的参加や態度、定期考査・小テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 英語科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。 		
評価の観点	【知識・技能】	知識を理解し、身に付けるとともに、聞いたり読んだりして理解している。	40%
	【思・判・表】	話し合い・意見の交換ができ、情報や考え等を簡潔に表現することができる。	30%
	【主体的態度】	積極的な態度で言語活動に参加し、英語力の向上に努めている。	30%

教科名	家庭科		科目名	家庭基礎	学年	2
教材	教科書	家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来			単位数	2
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の目標	1 一生と家族・福祉・衣食住・消費生活に関する基礎的知識を身につける。					
	2 家庭や地域の生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上を図る。					
	3 実習を通して調理の基本的技能を身につける。					
学習の進め方	1 教科書を中心に、基礎的・基本的知識を学びます。					
	2 調理実習を行って、調理の基礎技術を学びます。					
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を学びます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	A 1 生活設計 (1)	・人生ってなんだろう	
	5	2 青年期と家族	・青年期の課題とは？ ・家族ってなんだろう ・家族と社会のかかわり	・単元テスト
	6	3 保育	・子どもはどう育つだろう ・親になるとはどういうことか ・子どもを取り巻く環境は	・ノート、ファイル提出
	7	4 高齢期	・どう高齢化するのだろうか ・超高齢社会の課題	
	8	5 共生社会	・共生ってなんだろう	
	9			・単元テスト ・ノート、ファイル提出
前期目標				
後	10	B 1 食生活	・食生活を見つめてみよう ・食品の選択と取り扱い	・調理実習
	11		・献立づくりと調理 ・一人暮らしに必要なものは？ ・なぜ服を着るの？	・調理実習 ・ノート、ファイル提出
	12	2 衣生活	・衣服の成り立ちと性質 ・衣服の管理	・単元テスト
	1	3 住生活	・だれが暮らしているのだろうか ・どのように暮らす？ ・これからの住生活とは？	
	2	C 1 経済計画 2 消費生活 3 環境	・家計とお金の将来を考えよう ・かしこい消費者になろう	・単元テスト ・ノート、ファイル提出
	3			
後期目標				

評価方法	・定期考查、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 ・家庭科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	単元テスト、実習レポート、ノート、ファイルの状況	30%
	【思・判・表】	単元テスト、実習レポートなど状況。実習での様子	30%
	【主体的態度】	実習レポート、ノート、ファイルの提出状況。授業内での様子	40%

教科名	美術		科目名	美術概論	学年	2
教材	教科書	なし			単位数	2
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 芸術としての美術の意義や基礎的な理論について理解を深めることができる力を養う。					
	2 創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。					
	3 美術を専門的に学ぼうとする意欲や態度を養う。					
学習の進め方	1 美術の歴史を学び、美術の意義や基礎的な理論について理解を深めます。					
	2 演習を通し、造形的な見方・考え方を形にする力を身につけます。					
	3 様々な作品の制作意図や時代背景を理解するとともに、自己の作品についての理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	●オリエンテーション	・科目の目標や内容について理解する。 ・1年間授業の流れを理解する。	
	5	●美術の歴史と技法研究 ①（西洋美術史）	・美術、工芸、デザインにおける表現とは何か、著名な作品の鑑賞から技法研究や実験的演習を通して芸術への理解を深める。	
	6		・名画の鑑賞を通して、時代、様式、技法の理解を深める。	
	7		・表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成など、創造的な表現の構想について理解を深める。	
	8	●美術の歴史と技法研究 ②（日本美術史）	・表現材料の効果的な生かし方や用具について学び、意図に応じた表現方法の工夫について理解を深める。	
	9			
前期目標				
後	10	●美術の歴史と技法研究 ③（美術史のまとめと現代美術）	・知的財産権・肖像権について適切な理解と尊重する態度を養う。	
	11		・生活や自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術の変遷について考え、理解を深める。	
	12		・国際理解に果たす美術の役割を理解する。文化遺産としての美術の特徴と文化遺産等を継承し保存することの意義を理解する。	・レポート作成①（芸術家について） これまで学んできた美術史の中から、興味関心のある芸術家を選び、調べてまとめる。
	1	●絵画作品制作 （〇〇風作品を描こう）	・表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。	・レポート作成②（自己制作について） 美術概論での学びの集大成として、参考にする芸術家や作品を元に絵画作品を制作する。またそれと並行して、テーマを元に自らの考えや工夫点、思考の変化についてレポートにまとめる。
	2		・表現材料の効果的な生かし方や用具について学び、必要な技能を身に付け意図に応じて表現方法を工夫し作品制作をする。	
	3	●美術概論のまとめ	・これまでの学習を通し、自己の作品について理解を深める。	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組みの観察、教師とのやり取りやワークシートからの見取りで評価します。 ・提出された作品・課題から評価します。 ・様々な観点から総合的に評価します。（詳細については授業内で配布する評価規準表を参照） 		
評価の観点	【知識・技能】	・芸術としての美術の意義や基礎的な理論について理解を深めることができたか。 ・学んだ理論を実践する力が身についたか。	30%
	【思・判・表】	・造形的な見方・考え方を働かせ、美術に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を身につけることができたか。	40%
	【主体的態度】	・美術を専門的に学ぼうとする意欲や態度を養うことができたか。	30%

教科名	美術		科目名	絵画	学年	2学年
教材	教科書	なし			単位数	4
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 油彩画や日本画の制作など創造的な諸活動を通して様々な技法について学び、理解を深める。					
	2 表現や鑑賞の視野を広げ、独自の考えや発想などを絵画作品に表現する力を養う。					
	3 他者の作品のよさを感じ取り、自己、自然、社会を見つめ主題を生成し、豊かな心情を育てる。					
学習の進め方	1 与えられたテーマに則って、自分の考えや発想を元に主題を設定します。					
	2 色彩や構図などの構想を立て、材料や用具の理解を深めながら制作します。					
	3 作品鑑賞を通して美術史と表現の特質について学び、表現と鑑賞の視野を広げます。					

期	月	単元名	単元時間	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	オリエンテーション 画材研究①	1 h 2 4 h	学習内容、目標について理解する。 選択したテーマに合った作品づくり 岩絵具、水干絵具の扱い方 額縁制作、キャプション制作、展示要領 ※作品発表会	制作記録	
	5	↓				
	6	絵巻物	4 5 h	構図と物語の研究、エスキース検討 水彩絵の具等の扱い方 日本固有の表現様式について ※中間発表会		
	7	↓				
	8	↓				
	9	画材研究②	2 5 h	選択したテーマに合った作品づくり マチエールの工夫 適切な画材選択		
	前期目標					
	後	10			※作品発表会	制作記録
		11	↓			
12		油彩	4 4 h	油彩による表現の基本、主題の生成 題材の捉え方、エスキース検討 構図の基本 油彩画制作の手順 ※中間発表 卒業制作発表レポート		
1		↓				
2		↓				
3		↓				
後期目標	1年間のまとめ 1 h 1年間の制作の振り返り、卒業制作への意識付け					

評価方法	授業中の取り組みの観察、教師とのやり取りやワークシートからの見取りで評価します。 提出された作品・課題から評価します。 様々な観点から総合的に評価します。(詳細については授業内で配布する評価規準表を参照)				
評価の観点	【知識・技能】	画材・道具を適切に扱い、効果的な表現ができたか。			40%
	【思・判・表】	主題から様々な造形要素を踏まえ、適切な表現方法を選択し制作することができたか。			30%
	【主体的態度】	主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組むことができたか。			30%

教科名	工芸	科目名	図法製図Ⅱ	学年	2
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	工芸選択
学習の目標	1 JIS規格を基にした図面作成の基礎的な知識を身につける。				
	2 JW-CADの使用法と図面作成と技法を学ぶと共に製図読図能力を身につける。				
学習の進め方	1 1学年で学んだ知識と技能を発展させ、JIS規格に基づいた図面作成の方法を学ぶ。				
	2 練習問題を基にCADの適切な使用法を学ぶ。				
	3 実際の作成のための図面作成能力を身につける。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○JW-CAD導入	・CADソフトの機能と操作方法について学びます。	
	5	○JW-CAD 課題(箱)	・基本的な操作を基に練習課題に取り組みます。 ・CADでの作図を通し、JIS規格の復習を行います。 ・作図の基礎の復習とCADソフトでの寸法の入力方法を学びます。	
	6	作図課題1(ツール)	・図面に必要な情報の選択について学びます。 ・他者の図面との違いから図面に必要な情報について考察を行います。	課題提出
	7		・実物からの採寸を基にした作図作成。 ・図面の役割を理解し、整理された作図を学びます。 ・他者の図面との違いから図面に求められる役割を理解します。	
	8		・その他図面に係わる制作知識の座学を行う。	
	9	作図課題2(丸ツール)	・実物からの採寸を基にした作図作成。 ・使用法の取得度に応じた小課題を数回行う。	課題提出
前期目標				
後	10		・図面の役割を理解し、整理された作図を学びます。 ・他者の図面との違いから図面に求められる役割を理解します。	
	11	作図課題3(創作家具)	・条件を基に、実際の作品制作を見据えた作品構想と作図の手順を学びます。 ・作図に必要な金具についての座学を行う。 ・図面を用いた作品発表を行う。	課題提出
	12			
	1	作図課題3 発表		課題提出
	2	作図課題4(工制箱)	・実際の作品制作に結びつく作図及び制作計画について学びます。 ・図面と制作計画の発表を行う。	
	3	作図課題4 発表		課題提出
後期目標				

評価方法	課題の提出状況、課題の達成度及び課題の取り組みに対する意欲と態度により総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	JIS規格や、CADの使用法を理解し、図法の活用に向け知識や技術を習得しているか。	40%
	【思・判・表】	作業工程や進度に応じ適切かつ整理された作図作成及び読図できるか。	30%
	【主体的態度】	制作における図面の役割を理解し、意欲的に取り組んでいるか。	30%

教科名	芸術（工芸）	科目名	木工制作Ⅱ	学年	2 学年
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 安全指導をとおして危機管理への意識を高めるとともに制作における責任感を養う。				
	2 大型機械の使用法の習得と作品の制作をとおして、家具の基本的な構造を学ぶ。				
	3 制作の過程をとおして、立体的な感覚を養い、豊かな人間性の形成を目指す。				
学習の進め方	1 座学と実習により安全指導を行う。				
	2 課題の制作をとおして基本的な設計・構造・加工方法を学ぶ。				
	3 大型機械を使用した実習を行う。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 止血法について 大型木工機械使用法	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画について 評価方法について 様々な止血法について 製材の一連の流れについて クロスカットソーについて 手押し鉋盤について 自動送り鉋盤について 横挽き盤について ほぞの構造と種類について だぼ組の構造について 枠組の構造と加工について 木取りについて 基本的な製材加工 	<ul style="list-style-type: none"> 実習への取組
	5	枠組を用いた作品制作 ・大型機械による製材加工	<ul style="list-style-type: none"> 手押し鉋盤について 自動送り鉋盤について 横挽き盤について ほぞの構造と種類について だぼ組の構造について 枠組の構造と加工について 木取りについて 基本的な製材加工 	<ul style="list-style-type: none"> 実習への取組 制作段階の進度 機械製材終了 道具の手入れ
	6		<ul style="list-style-type: none"> 手押し鉋盤について 自動送り鉋盤について 横挽き盤について ほぞの構造と種類について だぼ組の構造について 枠組の構造と加工について 木取りについて 基本的な製材加工 	<ul style="list-style-type: none"> 実習への取組 制作段階の進度 材のあら取り～ 機械での基本加工終了
	7	・組立に向けた加工	<ul style="list-style-type: none"> 木取りについて 基本的な製材加工 部品図をもとにした大型機械による基本的な製材 部品の数量と寸法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 制作段階の進度 材のあら取り～ 機械での基本加工終了
	8	デザインスクールに向けた 椅子の構造について	<ul style="list-style-type: none"> 木取りについて 基本的な製材加工 部品図をもとにした大型機械による基本的な製材 部品の数量と寸法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 制作段階の進度 材のあら取り～ 機械での基本加工終了
9		<ul style="list-style-type: none"> 木取りについて 基本的な製材加工 部品図をもとにした大型機械による基本的な製材 部品の数量と寸法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 制作段階の進度 材のあら取り～ 機械での基本加工終了 	

前期目標	
------	--

後	10		<ul style="list-style-type: none"> だぼ接ぎの構造の理解 木取り、基本的な製材加工 部品図をもとにした大型機械による製材 	<ul style="list-style-type: none"> 実習への取り組み 制作段階の進度 機械製材の終了 道具の手入れ 機械での基本加工終了
	11		<ul style="list-style-type: none"> 部品の数量と寸法の確認 組み立てに向けた細部の加工 (手加工や小型機械) 	<ul style="list-style-type: none"> 制作段階の進度 細部の加工の終了 仮組み 塗装の終了 提出
	12	・組立、素地調整	<ul style="list-style-type: none"> 仮組、組立 塗装前の素地調整 塗装 部品の取り付け 	<ul style="list-style-type: none"> 制作段階の進度 細部の加工の終了 仮組み 塗装の終了 提出
	1		<ul style="list-style-type: none"> 仮組、組立 塗装前の素地調整 塗装 部品の取り付け 	<ul style="list-style-type: none"> 制作段階の進度 細部の加工の終了 仮組み 塗装の終了 提出
	2		<ul style="list-style-type: none"> 仮組、組立 塗装前の素地調整 塗装 部品の取り付け 	<ul style="list-style-type: none"> 制作段階の進度 細部の加工の終了 仮組み 塗装の終了 提出
3	・作品の塗装 ・最終組立			

後期目標	
------	--

評価方法	授業での進捗、制作に対する意欲、関心、態度を加え総合的に評価します。		
------	------------------------------------	--	--

評価の観点	【知識・技能】	大型機械の安全で効果的な使用方法を理解し、加工工程を考え適切な作業ができたか。	30%
	【思・判・表】	工程や進捗を考慮し、計画的に段取りよく作業を行うことができたか。	35%
	【主体的態度】	機械加工や手加工に興味を持ち、安全で意欲的に取り組むことができたか。自他の作品や工芸作品の良さを感じ取り、自己の制作に活かすことができたか。	35%

教科名	工芸	科目名	工芸制作	学年	2
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	工芸選択
学習の目標	1 基本的なデザインと作品作りを組み合わせ技術的、創造的に発展させた作品制作を目標とします。				
	2 制作の過程をとおり造形的視野を広めるとともに感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。				
学習の進め方	1 テーマをもとにデザインと機能を考える基礎的な課題の制作を行います。				
	2 習得した技術を自己の作品に生かし実際に制作します。				
	3 他の作品を鑑賞し自らの作品作りをより高める工夫をしていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○ガイダンス ●制作課題1(オリジナルの箱物) ・制作	○1年間の流れを理解する。 ・設定された課題の制作を行う。	・デザインの事前学習をする。 ・制作の手順や技法の考察をする。 ・計画を立てて作業することの重要性を知る。(自らの作業スピードや、得意不得意を知る。)
	5	・まとめと発表	・鑿や鉋の扱いなど、1年生で学んだ技術を活かし、用途に合わせて自らデザインした作品を制作。 ・作品の完成と提出。	
	6	●制作課題2(3本脚スツール) ・制作	・課題内容を考察し作品の制作を行う。 ・治具の活用、旋盤、ビスケットジョイントなど、新たな技術を学ぶ。	・制作に必要な情報を考察し作品の決定・制作を行う。
	7		・用途や機能性を加味したデザインを行う。	
	8			
	9			
前期目標				
後	10	・中間反省	・中間反省	
	11			
	12	・まとめと発表	・作品の完成と提出	・自らの制作をまとめることで成果を確認する。
	1	●制作課題3(グループワーク) ・制作 ○卒業制作発表 鑑賞	・テーマの設定と計画、構想 ・設計、模型制作 ・試作と検討、プレゼンテーション	・デザインの事前学習をする。 ・テーマと制作物の構想。(テーマをどのような手段で実現するか構想)
	2	・プレゼンテーション(発表)	○3学年の卒業制作発表にて、次年度制作への意識付けを行う。	○他者との学びを共有する。
	3	○1年間の振り返りと次年度へ向けて ○機械免許について	・資料のまとめ ・3年生で使用する機械の免許に関して理解する。また、止血テストを実施。	・自らの制作をまとめることで成果を確認する。
後期目標				

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。		
評価の観点	【知識・技能】	課題に関する知識の習得と技法の追及ができる。	40%
	【思・判・表】	課題と繋がる計画と表現を追求した制作を進めることができる。 自他の作品や工芸作品の良さを感じ取ることもできたか。	30%
	【主体的態度】	課題に対し制作の計画をもとに主体的に制作を進めることができる。	30%